

緑の分析 5. レクリエーションの場となる緑【配置】

1) 現況

- ① 本市における身近な公園（住区基幹公園）は、着実に整備量が増えてきた。一方多くの公園を抱える本市では維持管理コストの増大が大きな課題

本市の住区基幹公園の現況は、100箇所、面積 34.74ha で、市民一人あたり 4.45 m²/人となり、国 2.75 m²/人、県 1.96 m²/人、近隣住区モデルの標準面積 4.0 m²/人を上回る整備水準である。

一方で、多くの公園で施設の老朽化が進み更新が必要な状況となり、財政的にも大きな課題となっている。

本市の身近な公園（住区基幹公園）の整備量

		現況(2020年3月末)						国・県の一人当たりの公園面積(2017年度末)		近隣住民モデルにおける標準面積(㎡/人)
		市街地			市域			全国	埼玉県	
		箇所	面積(ha)	一人当たりの公園面積(㎡)	箇所	面積(ha)	一人当たりの公園面積(㎡)			
住区基幹公園	街区公園	64	14.02	2.53	90	16.89	2.14	1.18	0.93	1.0
	近隣公園	3	5.54	1.00	9	16.02	2.05			
	地区公園	0	0.00	0.00	1	2.03	0.26	0.71	0.27	1.0
	計	67	19.56	3.53	100	34.74	4.45	2.75	1.96	4.0

- ② 身近な公園が整備されていない区域有り。これらの区域と「レクリエーションが楽しめる公園緑地の満足度」が低い小学校区が一部重複

a. 身近な都市公園がない区域が存在

市内には身近な公園の誘致圏から外れる区域が分布している（図中ピンクの領域）。

表 身近な公園の誘致圏から外れる地区

項目	対象区域
誘致圏外の区域のある地区	小島、小島南、東台、本庄、銀座、日の出、前原、栄、新都心、共栄、児玉、児玉2、八幡山、金屋 等
公園のない集落地	新井、沼和田、下仁手、宮戸、下浅見、入浅見、上真下、秋山、塩谷 等

b. 「レクリエーション活動が楽しめる公園緑地の満足度」では、児玉小、金屋小、中央小、本庄南小などの学区で低い結果

市民アンケート調査における「公園や緑地でレクリエーション活動が楽しめる」かの問いでは、全体的に評価が低く、特に「児玉小」「金屋小」「中央小」「本庄南小」「仁手小」において評価が低い結果となった。

設問「公園や緑地でレクリエーション活動が楽しめる」の回答の学区別集計

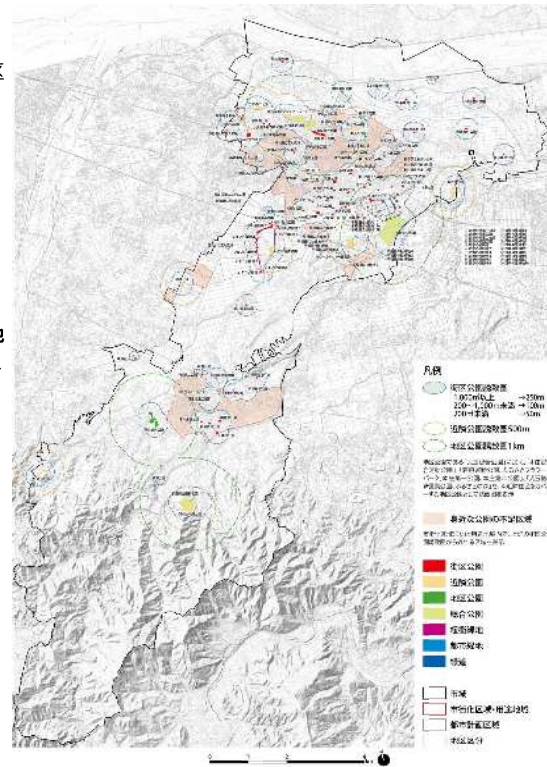
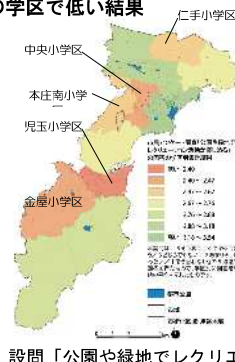


図 身近な公園の未整備区域の抽出

- ④ 【今後の都市公園のあり方】ストック効果の向上

既存公園に加え公園に準じる施設を柔軟に連携させて、地域の公園サービスの拡充を図ることが期待される。

- ③ 本市は公園から連続する河川、校庭、社寺境内地など公園に準じる機能を持つ空間が多く存在

河川や社寺地など、公園の準じる機能をもつ空間を踏まえ公園の未整備区域を評価すると、公園未整備区域が大きく解消される。

しかしながら、小島南、本庄～東台、共栄、児玉等の地区において、依然身近な公園が不足する結果となった。

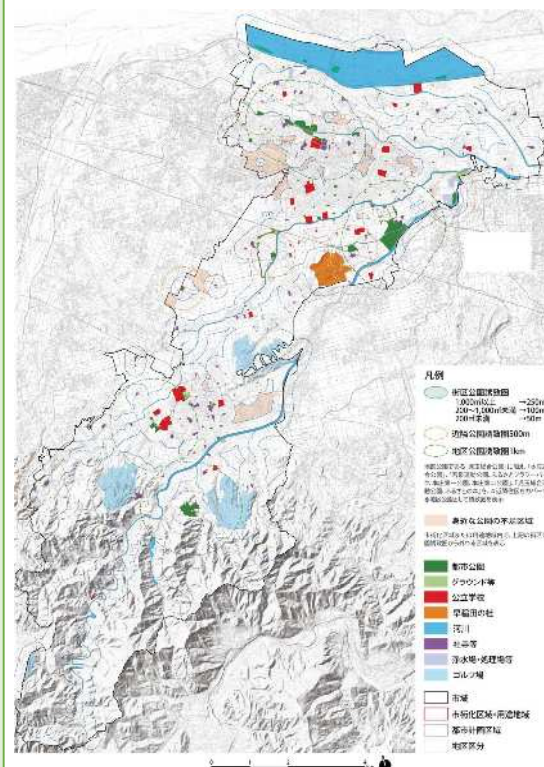


図 公園に準じる空間を含めた公園未整備区域の抽出

2) 課題

- ① 都市公園の充実と維持管理コストの削減の相対する課題に対応する必要がある①

- ② 身近な公園充足のニーズは高いが、公園分布の偏りや質的な問題により公園サービスが行き届かない区域が存在している②

- ③ レクリエーション空間として河川や社寺地などの地域の緑のストックが活用されていない③④

3) 方向性（案）

- ・周辺の公共施設や民間施設との連携を図る（配置の充実）